

9月16日	中学1・2年 総合的な学習の時間 保健体育（体育理論）	<生徒> SP：1年生4名 2年生9名 RJ：1年生1名
7校時	「ブラジルと日本の架け橋になろう」	<授業者>SP：竹治 義規 RJ：松平 豊 RJ：吉村 正浩

1. 単元の目標

- ①ブラジルと日本に関わる人や両国のつながり、世界とのつながりについて、元オリンピック選手の講話やオリンピック観戦を通して、テーマを見つけ、書籍、インターネットなどを利用して情報を集め、整理・分析し、まとめることができる。（知識及び技能）
- ②サンパウロ日本人学校とリオデジャネイロ日本人学校の2校合同で主体的・協働的に取り組み、互いの価値観や世界観を理解し合うことで、新たな考えをもつことができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ③ブラジルの地から日本や世界へ発信することで、自らがブラジルと日本の架け橋を担う意識を高め、両国のつながりについて相互理解し、自分の価値観を深めることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ④ブラジルと日本のつながりについての探究的な学習や遠隔での学習を通して、互いの考えを尊重する態度や柔軟で豊かなコミュニケーションする方法を身に付けることができる。（学びに向かう力、人間性等）

2. 生徒の実態

サンパウロ日本人学校の中学1年生は4名、2年生は9名である。全体的に明るく、人懐っこい生徒が多く、授業に対して意欲的である。また、横のつながりもあり、和気あいあいとした雰囲気の中、学級活動や日々の授業等を進めることができる。

リオデジャネイロ日本人学校の中学1年生は1名である。中学生は1名だけなので、普段の授業は1人であるが、体育や音楽、委員会活動やクラブ活動、休み時間、学校行事などは、小学生と一緒にいき、リーダーとして活躍している。

サンパウロとリオデジャネイロをつなぐことによって、同年齢の集団で授業を受けることや自分の意見を集団の中で発表する経験ができ、今後の生活に生かしていけると考えている。合同の体育理論の授業においては、積極的に自分の考えを述べ、サンパウロ日本人学校の生徒にもプラスの刺激を与える存在であった。

また、オリンピック出場経験のある選手からの話に興味をもって聞き、オリンピックを通じた学習を両校の生徒が協働して行うことで、世界とのつながりを改めて意識できた生徒が多かった。しかし、生徒たちがブラジルで過ごしている期間はそれぞれであり、「ブラジルと日本」という視点でみると、両国のつながりへの意識には差があると感じる。サンパウロ、リオデジャネイロ両都市で生活する生徒たちから見た両国のつながりを調べ、遠隔をツールとして協働して学び、発信していく学習を通して、自分の母国と現在生活している国を相互により理解するとともに、よりグローバルな視点を養っていくことにつなげたい。

3. 教材について

本研究は、一昨年度から始まり、2校合同研究主題「多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、協働できる子どもの育成」を昨年度設定した。今年度も、両校間で交流授業、研究授業、合同研修、部会研修等を行い、協力して研究をさらに進めてきた。

本年度、中学校部会の研究においては、「ブラジルと日本の架け橋になろう」を大テーマとし、ブラジルの地から日本や世界へ発信することを最終目標に掲げ、両国のつながりについて理解し、自分の価値観を深め、世界観を広げる機会とした。

また、探究的な学習や遠隔での学習を通して、多様性を受け入れ互いの考えを尊重する態度や柔軟で豊かなコミュニケーション力を高める機会にもした。

本単元は、総合的な学習の時間に位置付け、導入段階で保健体育の体育理論とも関連させながら、探求的な学習を進めてきた。具体的には、オリンピックを教材の一つとして、元オリンピック選手の講話や東京オリンピック観戦を通して、ブラジルと日本に関わる人や両国のつながり、世界とのつながりについて、テーマを設定した。特に、両国に関わっている人物、歴史、文化、政治、オリンピックから見えたコロナ差別、人権、スポーツのよさなど、いろいろな視点からテーマを設定させていきたい。その際、テーマを設定した理由も明確にもたせたい。

テーマに沿って調べ、まとめる学習をもとに、発表する活動では、Google スライド等を活用し、何を伝えたいのか、自分の価値観や世界観がどのように変化したのかなど、聞き手にわかりやすく伝える工夫や問題提起をし、聞き手にも考えさせるような工夫をさせたい。聞き手側には、発表者の多種多様な考えを尊重し、自己の価値観を深めさせたい。この活動が、研究主題の「多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、協働できる子どもの育成」につながるものと考えている。

4. 遠隔授業の視点から、単元で育みたい子どもの資質・能力

遠隔授業では、口頭による方法だけでは、聞き手側に理解してもらうことが難しいことも考えられる。そこで、iPad や Google スライド等を有効に活用したり、動作を工夫したりして、視覚的に伝えることで、自分の考えをより理解してもらえることを実感させていきたい。また、調べた内容を説明するだけでなく、伝える内容の要点を絞ったり、問題提起したりして、聞き手側にも考えてもらうような発表の工夫をすることで、遠隔でも考えを共有し、深められることを実感させていければと願っている。

5. 単元構成(20時間扱い・本時 13/20)

時間	学習内容	支援・評価等
1	<p>○ブラジルと日本にどのようなつながりや関わりがあるか友達と交流しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大テーマと学習の進め方の確認。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> ブラジルと日本の架け橋になろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 課題に関わるものをグループで交流しながら調べ、「ジャムボード」にまとめる。 <p>【評】大テーマについて、自分の考えを発表することができる(思・判・表)</p>
2 ~ 8	<p>○オリンピックについて学ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※保健体育科の授業とコラボ オリンピック新種目や東京開催ならではの取り組みについて学ぶ。 <p>○元オリンピック選手井上さんの講話から、オリンピックの意義やスポーツのよさを学ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 井上さんの出場した女子7人制ラグビー種目から分かることやオリンピックのとらえ方を聞き、オリンピックを通しての世界とのつながりを学ぶ。 <p>○オリンピックを観戦する視点を決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 観戦する視点をワークシートにまとめる。 <p>○オリンピック観戦レポートをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 冬休みを利用して、観戦する視点に沿って、レポートにまとめる。 <p>○レポートのプレ発表会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3~4名のグループに分かれ、お互いの発表のよさや改善点を交流する。 iPad等を利用して、まとめたレポートを見ながら、発表したり、聞いたりする。 <p>○オリンピック観戦レポートを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめたレポートを発表する。 井上さんからの総括(レポートを聞いての感想等)を聞く。 	<p>【評】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリンピックとは何か(意義・目的など)を知る。(知・技) ②東京オリンピックならではの工夫について知る。(知・技) <p>【評】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①講話を聞き、いろいろな視点でオリンピックを捉えることができる(思・判・表) ②質疑応答を通して、より理解を深めることができる。(知・技) <p>【評】</p> <p>3つ(4つ)の視点から、自分の興味・関心のあるテーマを設定する。(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> Googleドキュメント、Word、手書きでまとめる。 <p>【評】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①プレ発表会を通して、聞き手のことを意識して、発表内容を工夫し、表現することができる。(思・判・表) ②次回の発表会に向けての準備ができる。(主) <p>【評】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①聞き手のことを意識して、自分のレポートを表現することができる。(思・判・表) ②いろいろな視点でまとめたレポートを聞き、より深い学びにつなげることができる。(知・技) ③仲間の発表を聞き、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表)

9	<p>○ブラジルと日本に関わる人や両国のつながりについて、テーマを決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジルと日本の両国につながりや関わりのあるテーマを設定する。 ・事前にアンケートを実施し、テーマを絞る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両国に関わっている人物、歴史、文化、政治、オリンピックから見えたコロナ差別、人権、スポーツのよさなど、いろいろな視点からテーマを設定させる。
10 ～ 12	<p>○テーマに沿って調べ、まとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍、インターネットなどを利用して情報を集め、整理・分析し、まとめる。 ・ペアを組み、発表練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google ドキュメントを活用し、まとめさせる。
13 ～ 14	<p>○中間発表をしよう。(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を伝えたいのか、自分の考えがどのように広まったのか、など聞き手にわかりやすく伝える工夫をしたり、問題提起したりして、聞き手側にも考えてもらうような工夫をする。 ・聞き手側は、発表者の多種多様な考えを尊重し、質問や意見を述べ、自己の価値観を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad 等を利用して、発表できる環境を支援する。 ・集音マイクを設置し、相手に伝わるようにする。 <p>【評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個人テーマに沿って、発信したい内容をわかりやすく伝えることができる。 (知・技)
15	<p>○中間発表の反省をし、最終テーマを決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表での友達からの意見を参考に、発表内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ②仲間の発表を聞き、ブラジルと日本のつながりを深く知ることができる。 (思・判・表) ③自分の考えを表現することができる。 (思・判・表)
16 ～ 18	<p>○最終発表に向けて、準備をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4名前後のグループを作る。 ・個人で作成したレポートをGoogle スライドでまとめ、世界に発信したい内容をより深く調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google スライドを活用し、まとめさせる。
19	<p>○ブラジルの地から日本や世界へ発信しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本または近隣の国へ、発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本や近隣の国へ発信できる遠隔授業環境を整える。
20	<p>○「ブラジルと日本の架け橋になろう」についてのふり返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に行った発表のふり返りとその交流会を行う。 	<p>【評】自分たちが活動してきたことを整理し、今後の人生に生かすことができる。(主)</p>
<p>・ブラジルと日本のつながりを学び、発信することで、国際的なつながりをもつことができた。</p> <p>・世界に向けた広い視野をもつことができた。</p>		

6. 本時のポイント

【子どもが主体的に取り組むための学習展開】

- 「ブラジルと日本の架け橋になろう」ということが意識できる課題を工夫する。
- 相手の話を聞きとり、思ったことや感じたことを表現することができるよう、発表の後に交流の時間を設ける。
- 子どもたちが発表しやすいよう、機器環境を整え、端末等の操作を教師がサポートする。

【協働を通して学びを深めるためのICTの活用】

- zoomを使って、リアルタイムで交流授業を行う。
- 発表の提示資料をデジタル化することで、教師が異なる場所にいる児童生徒の実態をより理解できたり、異なる場所にいる子どもたちが同じ進度・方向性をもって授業に参加したりできるようにする。

7. 本時の目標

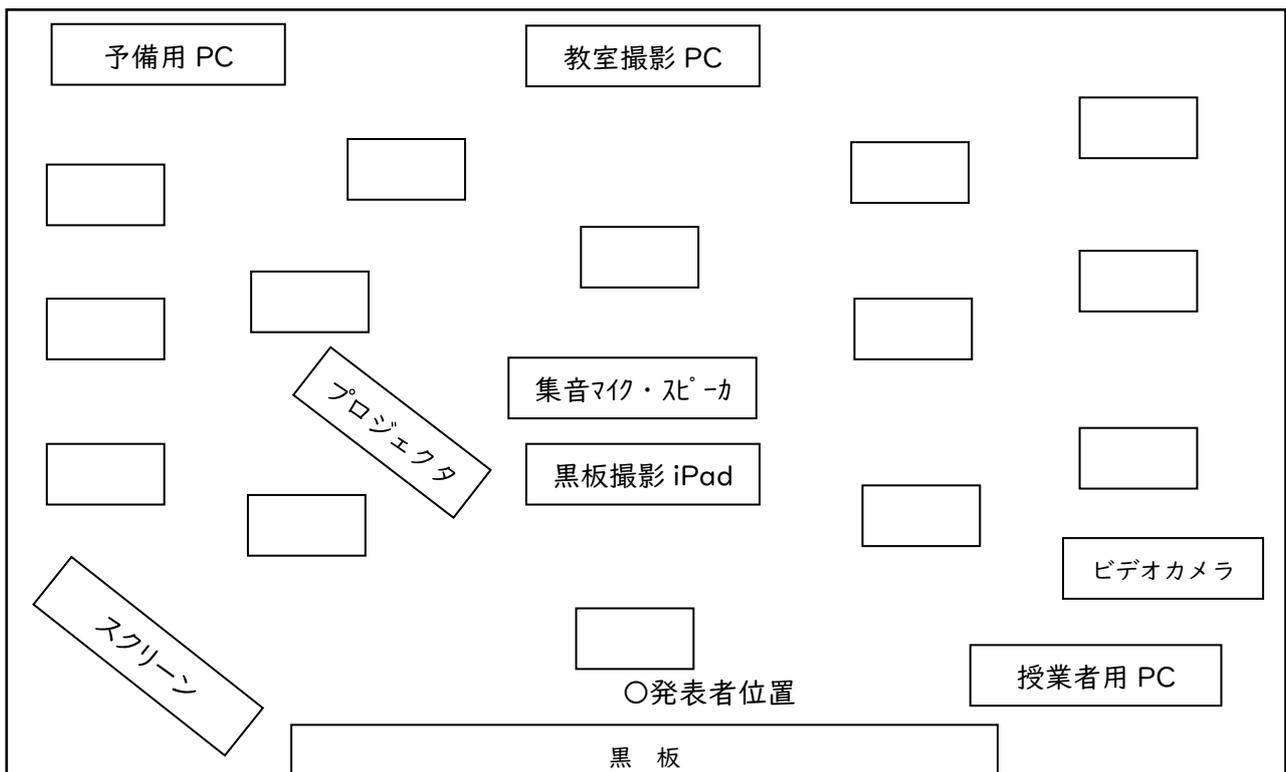
- 個人テーマに沿って、発信したい内容を分かりやすく伝えることができる。(知識及び技能)
- ブラジルと日本のつながりを深く知ることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- 多様な発表を聞いて、自分の考えを表現することができる。(思考力・判断力・表現力等)

8. 本時の展開(13/20) ※本時は13・14時間目の2時間連続とする。

主な学習活動と子どもの思考の想定	教師のかかわり
<p><前時までの活動や子どもの思考の流れ> 個人で設定したテーマを基に、書籍やインターネット等を利用し、調べたものを Google ドキュメントにまとめ、パートナーと発表するための準備を行ってきた。</p> <p>○はじめの挨拶</p> <p>○本時の課題提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>仲間の発表を聞き、ブラジルと日本のつながりを深く知ろう。</p> </div> <p>○発表順の確認</p>	<p>○本時の課題を提示する。</p> <p>○発表する側、聞く側の心構えを伝える。</p> <p>○プロジェクター、集音マイク、iPad等を準備する。</p>
<p>○3つのテーマ(①人②食③もの)に沿って、個人での発表会を行う。</p> <p>①レポートの発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人3分以内の発表を行う。 ・*住んでいるから分かるブラジルの素晴らしさを伝える。 ・*聞き手にブラジルの素晴らしさを知ってもらおう。 ・スクリーンの前で発表を行う。 ・パートナーが ICT 機器(PC等)を操作する。 <p>②感想の記入をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1分程度書く時間を確保し、新たな学びや深く知ることができたことをワークシートに記入する。 ・*ワークシートの内容をブラジルのことについて、「新たに学んだこと」「深く知ることができたこと」という2点に絞り、感想を書く。 <p>③感想の発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数人に書いたことを発表させる。 「○○について、初めて知ることができた。」 「△△について、自分も調べてみたいと思った。」 <p>※①と②を③繰り返して行う。</p>	<p>○司会役として、発表のサポートをする。</p> <p>○ICT 機器の操作のサポートをする。</p> <p>○新たな発見や共感した内容などを拾い上げ、フィードバックさせ、理解を深めさせる。</p>
<p>○まとめと次時についての連絡。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の総括を簡潔に伝える。 ・次時も続きを行うことを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・分かりやすく発表内容を伝えることができた。</p> <p>・いろいろな形でブラジルと日本が繋がっていることを知ることができた。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評】個人テーマに沿って、発信したい内容をわかりやすく伝えることができる。(知・技)</p> <p>仲間の発表を聞き、ブラジルと日本のつながりを深く知ることができる。(思・判・表)</p> <p>自分の考えを表現することができる。(思・判・表)</p> </div>

【サンパウロ日本人学校】

使用機器	用途
授業者用 PC ミュート ON/ビデオ OFF	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOM 接続 (ホスト・オーディオ接続有り、ビデオ接続有り)、リオデジャネイロ日本人学校と遠隔でつなぐ。 ・学習内容や発表資料を画面共有で提示する。 ・生徒が発表する際、資料提示 (画面共有) 等、操作する。
教室全体撮影 PC ミュート OFF/ビデオ ON ※集音マイクと連結	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOM 接続。(オーディオ接続有り、ビデオ接続有り) ・教室の全体の撮影。 ・集音マイクのワイヤレス USB を差し込み、マイクはワイヤレスマイクを選択しておく。(集音マイクからの音声を送られてくる)
黒板撮影 iPad ビデオ ON	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOM 接続。(オーディオ接続しない、ビデオ接続有り) ・黒板や授業者、発表者を撮影する。
iPad 設置用三脚立て	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板撮影 iPad を設置するための三脚。
ワイヤレス集音マイク スピーカーとしても兼ねる	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内の声をひろい、リオデジャネイロ日本人学校からの声を流す。 ・教室の中央に設置。 ・ワイヤレス USB を教室全体撮影 PC に差し込んでおく。
予備用 PC ミュート ON/ビデオ OFF	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者用 PC の予備 PC として準備しておく。 ・ZOOM 接続が不良の場合に備え、ZOOM 接続。 (共同ホスト、オーディオ接続有り、ビデオ接続有り)
プロジェクター	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者用 PC と接続し、スクリーンに映す。
スクリーン	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者用 PC 画面を映す。
研修用ビデオカメラ	<ul style="list-style-type: none"> ・校内事後研修用に授業の様子を録画する。



【リオデジャネイロ日本人学校】

使用機器	用途
教員用 PC (マイク・スピーカーシステムを USB 接続する) ミュート ON または OFF / ビデオ ON	<ul style="list-style-type: none"> ・zoom 接続 (オーディオ接続有り、ビデオ接続有り) をする。 ・共同ホストになり、zoom 会議のローカル録画をする。 ・リオデジャネイロの生徒の様子を撮影する。 ・マイク・スピーカーシステムに接続し、音声の入出力をする。 (zoom で、マイクとスピーカーをこのマイク・スピーカーシステムで音声の入出力ができるように設定できているかを確認する。 必要に応じて、マイクを ON または OFF にする。) ・サンパウロの教室の様子を zoom のピン設定をして画面に大きく表示する。 ・教員が、チャットでサンパウロ日本人学校と連絡をとる。 ・生徒用 iPad の予備として準備しておく。
マイク・スピーカーシステム (URB で教員用 PC と接続する)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や教員の音声をマイクでひろい、サンパウロ日本人学校からの音声を出力する。 ・生徒の横 (教師からも 2m 以内の距離) に設置。 ・状況に応じて、マイクを ON または OFF にする。
生徒用 iPad (キーボード付き) ミュート (オーディオ接続無し) ビデオ ON または OFF	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒 (1名) が、zoom 会議に接続 (<u>オーディオ接続無し</u>、ビデオ接続有り) をする。 ・自分の名前を表示し、顔を写す。(場面によって、ビデオ接続を ON または OFF にする。) ・画面共有された資料を見たり、サンパウロ日本人学校の様子をスピーカー表示したり、ギャラリー表示したりする。 ・必要があれば、共有画面でペアの資料の表示操作等をする。
スマートフォン	・zoom でインターネット接続ができない場合等の緊急連絡手段。
教員用 iPad	・校内研修や記録のため、教室全体の様子等を撮影 (動画、写真) する。

